

琉球大学学術リポジトリ

概要、凡例

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学博物館（風樹館） 公開日: 2016-11-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/35765

概要

- (1) 本目録には、琉球大学博物館（風樹館）に収蔵されているサンゴ類標本のうち、採集年月日、採集地点や採集水深などの情報が一部残されていたパラオ産造礁サンゴ（主に有藻性イシサンゴ類、一部にアオサンゴ類やクダサンゴ、ヒドロサンゴ類を含む）骨格標本を収録した。また、採集地点・水深情報は記されていなかったが、パラオ産標本と同時期に採集・保管されていたグアム産標本も本目録に掲載した。
- (2) 本目録に収録されている造礁サンゴの骨格標本の多くは、当時、琉球大学理工学部所属の山里清氏と西平守孝氏が、パラオ共和国コロール島岩山湾とその周辺域で採集した標本である。この調査に関する学術論文やその他の報告書、メモなどは残されていないが、標本が採集された月影潭やレゴブル水路などの大まかな位置やサンゴ礁地形は、堀越 (1971)や大森 (1999)などから読み取ることができる。
- (3) 本目録に収蔵されている標本数は 1386 点、261 種である。これらの中には、種レベルでの同定が困難で、未同定種もいくつか含まれている。
- (4) 本目録に掲載されている造礁サンゴ類の種同定は、原記載と掲載されているタイプ標本写真やスケッチの特徴や、実際のタイプ標本の観察に基づいて行った。また、分類群の学名と分類学的位置は、Benzoni et al. (2010), Budd et al. (2012)や Huang et al. (2014)に代表される近年の形態分類学的・分子系統学的研究結果を集約し、一つにまとめて紹介した杉原 (2014)や杉原ほか (2015)に従った。さらに、一部の種については、和名の安定性を考慮、もしくは同属の類似種との混乱を回避するため、新称和名を提唱した (表 1)。

目録及び図録中での種名の配列については、まず花虫綱のイシサンゴ目、アオサンゴ目（アオサンゴ類）とウミトサカ目（クダサンゴ）、次にヒドロ虫綱のヒドロサンゴ目の順になっている。目内での配列については、まずサンゴの科名がアルファベット順、次に属名そして種小名が同様にそれぞれアルファベット順となっている。

表 1. 本目録で新称和名を提唱した種の一覧

学名	新称和名	和名の由来
<i>Isopora cuneata</i> (Dana, 1846)	クサビニオウミドリイシ	群体の枝状部がくさび形を呈する
<i>Pavona minuta</i> Wells, 1954	アミメシコロサンゴ	群体上で個体配列が網目状になる
<i>Galaxea astreata</i> (Lamarck, 1816)	オガサワラアザミサンゴ	国内では小笠原諸島周辺で多く見られる
<i>Cycloseris mokai</i> (Hoeksema, 1989)	カワラマンジュウイシ	かつてカワラサンゴ属に含まれていたことに因む

<i>Cyphastrea kausti</i> Bouwmeester and Benzoni, 2015	ミヤコトゲキクメイシ	国内では宮古島周辺で多く見られる
<i>Goniastrea minuta</i> Veron, 2000	ヒメコモンキクメイシ	コモンキクメイシに似るが、より個体が小さい
<i>Mycedium robokaki</i> Moll and Borel Best, 1984	ヒメウスカミサンゴ	ウスカミサンゴに似るが、より個体が小さい
<i>Oulophyllia bennettiae</i> (Veron, Pichon and Wijsman-Best, 1977)	カクオオナガレサンゴ	セリオイド型の個体配列により個体が角張って見える
<i>Pocillopora ligulata</i> Dana, 1846	ウスイタハナヤサイサンゴ	複数の枝が融合して薄板状になる
<i>Stylophora mordax</i> (Dana, 1846)	ヤスリショウガサンゴ	群体表面で個体がささくれたように見える
<i>Goniopora norfolkensis</i> Veron and Pichon, 1982	ノーフォークハナガササンゴ	タイプ産地（ノーフォーク島）に因む
<i>Goniopora paliformis</i> (Veron, 2000)	マルボシハナガササンゴ	環状の莖壁と放射状に配列したパリの形状に因む
<i>Heliopora coerulea tuberosa</i> Dana, 1846	ハシラアオサンゴ	群体の枝が柱のように上方に突出する

(5) 種同定が困難とされる一部の分類群の同定・整理に際し、以下の方々からの協力を得た。

- ・ミドリイシ科ミドリイシ属（下池・梶原・山本）
- ・ミドリイシ科コモンサンゴ属（野村）
- ・ヒラフキサンゴ科及びオオトゲサンゴ科（松本）
- ・クサビライシ科（立川）
- ・サザナミサンゴ科（深見・永田）
- ・ハマサンゴ科ハマサンゴ属（横地）

謝辞

沖縄環境分析センター環境調査部の伊藤馨司氏と上原秀貴氏には、標本の整理や標本ラベルの作成にご協力いただいた。沖縄美ら島財団総合研究センターの西平守孝氏、沖縄環境科学センター環境科学部の長田智史氏と琉球大学国際沖縄研究所の佐藤崇範氏には、これまでの標本の整理状況や該当する標本の所在と参考文献についてご教授いただいた。日本造礁サンゴ分類研究会の会員の皆様には、造礁サンゴの分類に関する最新の知見や、種の同定基準についてのご意見や情報をいただいた。以上の方々には厚くお礼申し上げます。また本目録の作成に際し、平成 22・23 年度海洋博覧会記念公園管理財団調査研究助成事業助成金（研究代表者：杉原薫）、平成 23・24 年度科学研究費補助金基盤研究(B)（課題番号 22370033, 研究代表者：深見裕伸）、同補助金新学術領域研究（課題番号 20121006, 研究代表者：茅根創）、そして国立環境研究所地球環境研究センター海洋モニタリング事業（温暖化影響）による支援を受けています。

参考文献

- Benzoni, F., Stefani, F., Pichon, M., Galli, P. (2010) The name game: morpho-molecular species boundaries in the genus *Psammocora* (Cnidaria, Scleractinia). *Zoological Journal of the Linnean Society* 160: 421–456
- Budd, A. F., Fukami, H., Smith, N. D., Knowlton, N. (2012) Taxonomic classification of the reef coral family Mussidae (Cnidaria: Anthozoa: Scleractinia). *Zoological Journal of the Linnean Society* 166 : 465–529
- Huang, D., Benzoni, F., Fukami, H., Knowlton, N., Smith, N. D., Budd, A. F. (2014) Taxonomic classification of the reef coral families Merulinidae, Montastraeidae and Diploastraeidae (Cnidaria: Anthozoa: Scleractinia). *Zoological Journal of the Linnean Society* 171: 277–355
- 堀越増興 (1971) パラオ諸島 に於ける珊瑚礁生態の予察調査. ベントス研連誌 3/4: p. 9–20
- 大森 信 (1999) パラオ熱帯生物研究所と新しく設立されるパラオ国際サンゴ礁センター. みどりいし 10: p. 1–5
- 杉原 薫 (2014) 琉球大学資料館 (風樹館) 中城湾サンゴ類標本目録. 琉球大学資料館 (風樹館) 収蔵資料目録第9号: p. 1–82
- 杉原 薫・野村恵一・横地洋之・下池和幸・梶原健次・鈴木 豪・座安佑奈・出羽尚子・深見裕伸・北野裕子・松本 尚・目崎拓真・永田俊輔・立川浩之・木村 匡 (2015) 日本の有藻性イシサンゴ類～種子島編～. 国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター, つくば, 197pp

凡例

ID	採集場所	採集水深	採集日	採集者	保存状態	備考
----	------	------	-----	-----	------	----

ID は、琉球大学資料館(風樹館)の標本登録番号である。採集場所、採集水深、採集日と採集者は、オリジナルラベルに記載されていたものを編集して記した。